

## 第 29 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 8 年 2 月 5 日（木）  
午後 6 時から午後 7 時 30 分  
会場：長野県佐久合同庁舎講堂

### <次 第>

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 会議事項

(1) 第 28 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 学びのイメージ（定時制）について

(3) 校名・校歌・校章について

(4) その他

#### 4 その他

第 30 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】現在調整中

【会場】現在調整中

#### 5 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

## 佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

◎ = 座長

区分	氏名	所属等
自治体	畠山 啓二	佐久市 副市長
	神津 長生	佐久市教育委員会 教育長
	篠原 秀郷	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
産業界	坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
	渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
	白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
学識経験者	坂江 千寿子	佐久大学 学長
地域	廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
	滝沢 裕之	佐久地域振興局 局長
	◎吉岡 道明	佐久市教育委員会 前教育長
同窓会	吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
	長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長
PTA	後小路 正人	野沢北高等学校PTA 会長
	小林 京子	野沢南高等学校PTA 会長
	山崎 由香	全佐久PTA連合会 顧問
学校関係者	相原 修	佐久中学校長会 会長
	白鳥 貴文	佐久小学校長会 会長
再編対象校	酒井 宗路	野沢北高等学校 生徒会長
	小林 颯介	野沢北高等学校 生徒会副会長
	今村 奏音	野沢北高等学校 生徒会副会長
	中沢 美羽	野沢南高等学校 生徒会長
	水澤 琉生	野沢南高等学校 生徒会副会長
	武田 倅奈	野沢南高等学校 生徒会副会長
	柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
	赤羽根 弦	野沢北高等学校 教諭
	中村 信秋	野沢南高等学校 校長
	齋藤 桂似郎	野沢南高等学校 教諭

### 事務局

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
田中 聡	(教頭)・事務局長	篠原 豪	(全・教頭)・副事務局長	柳沢 勝美	主幹指導主事
赤羽根 弦		篠原 俊介	(定・教頭)	土橋 邦彦	主任指導主事 (佐久新校担当)
澤田 浩文		齋藤桂似郎		高橋 正俊	主任指導主事 (佐久新校副担当)
清水 貴弘		山口 達之		貝野 宗司	主事 (佐久新校担当)
磯田 涼太		阿藤 正彦		<b>学びの改革支援課</b>	
		小須田勝夫		高野 英美	主任指導主事 (佐久新校担当)

## 第 28 回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和 7 年 (2025 年) 11 月 10 日 (月) 18 時 00 分～19 時 40 分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席 (敬称略)	吉岡道明、畠山啓二、神津長生、篠原秀郷、坂川和志、渡辺 仁、廣末恵子、滝沢裕之、吉岡徹、長田芳子、後小路正人、小林京子、山崎由香、白鳥貴文、酒井宗路、小林颯介、今村奏音、中沢美羽、水澤琉生、武田倅奈、柳沢敬、赤羽根弦、中村信秋、齋藤桂似郎 以上 24 名
傍聴者	16 名 (うち報道 2 名)
事務局	野 沢 北 高 校 : 田中教頭 (事務局長)、澤田教諭、清水教諭、山下教諭 野 沢 南 高 校 : 篠原(豪)教頭 (副事務局長)、篠原(俊)教頭、山口教諭、阿藤教諭、小須田教諭 県教育委員会 : 柳沢主幹指導主事、土橋主任指導主事、貝野主事、高野主任指導主事
当日資料	次第、第 27 回懇話会まとめ、学びのイメージについて、 東信地区における定時制・通信制課程の現状と再編・整備計画、校名選考について

### 会議事項

- (1) 第 27 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 学びのイメージについて
- (3) 施設整備について
- (4) 校名選考について

### 主な内容(要旨)

- (1) 第 27 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

事務局から説明。

【質疑・意見】 なし

- (2) 学びのイメージについて

事務局から説明。

<全日制の学びのイメージの修正内容>

- 前回の懇話会で出された意見を反映して検討を進め、数か所の文言を修正。
- 「新しい普通科」の囲みの中の表現を、「理数科を発展させた学科」との整合性をとり修正。
- 二つの学科を繋ぐ丸い囲みの中を、二つの学科を繋げるという趣旨で STEAM 教育と修正。
- 定時制の学びのイメージを新たに作成するため、全日制の学びのイメージから削除。

【質疑・意見】 ⇒事務局回答 →高校再編推進室回答

- ・「夢のある平和で豊かな未来を共創する知の探究校」という理念と、赤字で強調された「第一志望の成就」や「難関大学や医学部、国公立・私立大学および海外大学進学」などの記載が本当にイコールなのか疑問を感じる。
- ・「第一志望の成就」やその下の具体的な難関大学・医学部などの記載について、この学びのイメージに記載する必要があるのか。ここに記載しないと本当に成し遂げることができないのかとってしまう。  
⇒「夢のある平和で豊かな未来を共創する知の探究校」は、非認知能力も含めた幅広い学力の成長を目指している。進路に関する具体的な記載(難関大学や医学部など)は、数字を目標にしているわけではなく、生徒たちの希望する進路を全面的に支える学校にしたいという意図である。新校の進路支援の具体性を示すために記載している。
- ・難関大学を目指す生徒は早くから努力し、先生方も伴走して支援してくれている。一方で、班活動や学校生活を楽しみながら自分のペースで進路を目指す生徒にも柔軟に対応しており、個々にあわせて行われている。こうした特徴を中学校や進路指導の先生にわかりやすく伝えることが重要であり、他地区へ生徒が流出することを防ぐ手立てともなり、そのためにもこういった記載となっている。

### <定時制の学びのイメージの作成ポイント>

- 小諸義塾高校定時制が佐久新校定時制に集約される時期が明確になっていないことから、引き続き小諸商業高校定時制の学びを含めて検討していく。
- 保護者等から、野沢南高校定時制の現状維持を望む非常に多くの意見があることから野沢南高校定時制の学びを基本に作成。
- 様々な目的を持った多様な生徒が入学してくるため、様々な学びや学習の形を準備する必要がある。

【質疑・意見】 ⇒事務局回答 ⇒高校再編推進室回答

- ・東信地区における定時制・通信制課程を考える上で、東御清翔高校夜間部設置がキーポイントになると思うが、その時期についての検討はどうなっているか。  
→懇話会と同じような準備委員会を設け検討を進めている。夜間部設置の時期について、12月ぐらいには公表できると思う。
- ・今年度野沢南高校定時制には45人が在籍しているが、クラス編成はどうなっているか。  
⇒各学年1クラス編成で運営している。
- ・生徒の主な入学動機に「少人数の学校で学びたい」とあるので、次の生徒を待っていますという項目に関連した一言があると入学を考えている人に伝わりやすい。
- ・学びのイメージの文言が、全体的に夢や未来といった明るさが見えるようにしてもらいたい。
- ・高校改革実施方針で示した方向性に、「専門学科の施設・設備を有効に活用し、体験的なキャリア教育を充実させながら、普通科へ転換する。」とあるが、現在の小諸商業高校定時制も普通科に転換するのか。  
→小諸商業高校定時制は小諸義塾高校に商業科のまま移管されるが、いずれ募集停止となり佐久新校に集約されることになるので普通科へ転換することになる。
- ・「非認知能力向上」という言葉は、少し理解しづらいのではないか。  
⇒認知能力とは簡単に言うと知識や学力であり、非認知能力とはそれ以外の力となる。学力だけでなく、社会で生きる力ということ。わかりやすい言葉になるよう工夫する。
- ・入学する生徒が「仲間との協働」を期待しているのか、「自分のペースで学びたい」という思いが強いのか気がなる。不登校経験者が多いことを踏まえると、そのニーズによって学びのイメージも変わる可能性があるため、現在の雰囲気など知りたい。  
⇒中学校時代に他者との関係を築けなかった生徒も多いが、高校入学後に新しい人間関係を作っている生徒もいる。一方で、自分のペースで学びたい生徒もいるため、「協働」を掲げつつ、単位制や少人数授業を取り入れ、多様な学びを実現する体制を整えるなど柔軟な仕組みを目指している。

#### 《座長まとめ》

- ・学びのイメージは誰に向けたものかを明確にする必要があり、対象によって表現や内容の取捨選択が変わる。専門的な表現で理念を固めることも重要だが、中学校の進路指導の先生や進学を考える生徒にとって分かりやすい資料にすることが求められる。特に学校生活の様子（班活動、図書館など）を盛り込み、生徒の意見も反映したパンフレットを作成することが望ましい。
- ・全日制の学びのイメージについては、「第一志望の成就」等はなくともよいのではという意見があったが、新校についてわかりやすくすることやアピール性を考えて残した経緯がある。また、地域において担っていくべき役割は何かと考えた時に、このような表現になった。
- ・定時制については、働きながら学ぶ学校という従来の役割に加えて、学び直しの場、将来の進路を見据えた学びの場としての重要な役割を担っていることが大事。それをぜひわかりやすく学びのイメージの中に落とし込んでもらいたい。
- ・懇話会は結論を決める場ではないので、出された意見を踏まえて事務局で検討してほしい。

### (3) 施設整備について

高校再編推進室から校地拡幅部や校地周辺の市道など、外構や周辺環境に関する進捗状況について説明。

- 現在の進捗状況に加え、除却工事に伴う学校施設の使用制限下においても、在校生の学びを保障していくために、地域を中心とした関係機関との連携が不可欠。

【質疑・意見】 なし

#### (4) 校名選考について

##### 事務局から説明。

- 校名・校歌・校章を統一したコンセプトや一体感のあるデザインとなるよう決定する方法を検討。
- 両校卒業生や地域関係者をアドバイザーとするプロジェクトチームを設置し、コンセプトやデザインを検討。
- 懇話会メンバーをベースとしたプロジェクトチームとし、校名選考を先行して実施し、その後、校歌・校章を策定し、三つを同時に公表する方針。
- 懇話会には検討過程を丁寧に説明し、地域とともに構想する体制を醸成。
- 令和8年12月までにコンセプトを固め、令和9年から策定開始。校名選考はコンセプト決定後すぐに実施。
- これまでの校名選考案と今回の検討案を比較検討するため、懇話会構成員の意見を求める。

【質疑・意見】      ⇒事務局回答      →高校再編推進室回答

- ・新しい検討案の一番のポイントは何か。  
⇒校名・校歌・校章の一体感を重視し、三つを同時に公表すること。また、事前にプロジェクトチームで必要な要素や方針を検討し、そのコンセプトに基づいて進めることで、より完成度が高いものになる。
- ・今までの方法だと校名決定後、校歌・校章はどのように決まっていくのか。  
→例えば校章はデザイナーの方、校歌は作曲家など各専門分野の方に製作を依頼する。
- ・新しい検討案で校名選考において、公募は行うのか、行わないのか。  
⇒公募を行いたいと考えているが、公募条件やコンセプトをしっかりと検討する。
- ・これまでの校名選考案と今回の検討案の公募のスケジュールをどう考えているか。  
→これまでの校名選考案だと、今年度中に要項を確定させ、令和8年度当初から公募を行う予定。  
⇒プロジェクトのコンセプト決定を令和8年12月としているが、コンセプトが決まり次第、できるだけ早急に取り掛かりたい。遅くとも12月には公募ができる体制にしていきたい。
- ・プロジェクトチームの構成について、説明では懇話会構成員をベースにするとされたが、過去の校地決定には「部会」を設置していたが、今回は部会ではなく懇話会から独立した会議体を作るということか。  
⇒プロジェクトチームの構成について、懇話会構成員を基盤としつつ、必要に応じて外部メンバーも加える可能性もある。「部会」ではなく、懇話会をベースにしつつ拡張した会議体を検討したい。
- ・校名選考について、当初はこれまで説明がされてきた方法を想定していたが、議論を重ねる中で、校名・校歌・校章を統一したコンセプトで同時発表する方針がよいと考えるようになった。コンセプト決定を前倒しすることで、校名選考を早期に進め、公募も含めて準備し、最終的に校歌・校章とともに12月に同時発表することを希望する。
- ・「部会」ではなくプロジェクトとして進めることに賛成。懇話会構成員に加え、専門分野の適任者を加えて英知を結集し、校名・校歌・校章を統一したイメージで策定する方針は良いアイデアであり、その方向で進めることを支持する。
- ・新しい検討案の懸念点は何か。  
→懸念点は、スケジュール管理が可能なのかということ。校名・校歌・校章を決めるにはそれぞれ時間を要するため、間に合うのかどうか。また、プロジェクト内の議論をどのようにオープンな形で進められるのかということ。
- ・校名・校歌・校章は学校の象徴であり、一体的に検討することが重要。構成員の皆さんから幅広い意見をもらいながら進めてきたので、引き続き関与できる形を検討したい。校名の公募では多数の応募が予想され現場の負担が懸念されるが、提案したプロジェクト案のスケジュールなら対応可能。さらに、生徒の意見を反映することが重要であり、生徒にも検討に関わってもらうことを期待している。県教育委員会と事務局で協議しながら、懇話会の意見を反映することや必要な形で議論をオープンにできる方法等を考えながら進めていきたい。

#### その他

##### 【次回】第29回懇話会

日程：年明けの開催で調整中

会場：調整中

## 佐久地域定時制課程の拠点として

～野沢南高校定時制の伝統と、新校の新たな取組を融合～

野沢南高等学校 3つの「ゆう」による学校づくり



3つの「ゆう」

友

優

結

友達を大切にする

優しい心と優れた力

地域とのつながりを大切にする

## 佐久新校定時制で新たに取り入れる学び

### 仲間との協働

各種行事を通して、より良い人間関係を構築し、非認知能力向上を目指します。

### 多様な学び

単位制・3修制の導入で、多様なニーズに対応し、幅広い学びを提供します。

### 地域との結びつき

地域コンソーシアムを積極活用し、知識・技能・探究力を育成します。

1・2年



自 基  
律 礎

二層構造の学び

自 探  
立 究

3・4年



仲間との協働

基礎学力

経験

SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)

挑戦

発展的な探究力

まとめてリードする力

職業体験・ボランティア活動  
地域コンソーシアムの活用

～佐久新校定時制は次のような生徒を待っています～

- ☆「学びなおし」を通し、あきらめずにこつこつと努力を積み重ねられる生徒
- ☆仲間や集団での生活体験・探究活動を大切にしたいという気持ちのある生徒
- ☆学校や地域での活動を通して、人間的に大きく成長したいと考えている生徒

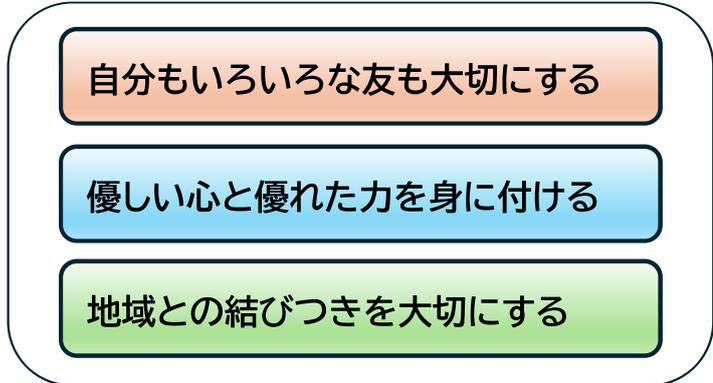
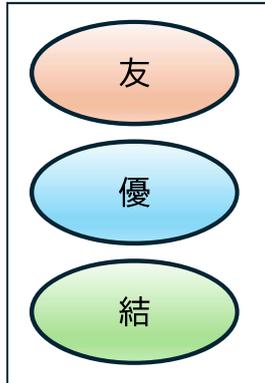
# 「なりたい自分」に出会える場所

～夢のある豊かな社会を創る担い手へ～

## 3つの「ゆう」による学校づくり



3つの「ゆう」



## 「なりたい自分」に出会える学び

### より良い人間関係

様々な取組みを通じ、自己肯定感とともに対人スキルを高めます

- ・SST\*1の導入
- ・クラスや学年を超えた学校行事
- ・地域の方と協働した学び
- ・SC\*2、SSW\*3、学生ボランティア等のサポートなど

### 学びの多様な選択肢

単位制や3修制により、多様なニーズに対応した幅広い学びを提供します

- ・必要な条件がそろえば卒業可能
- ・3年間でも卒業可能
- ・幅広い学校設定教科・科目
- 例) SST科目、キャリアデザイン(仮称) 学び直し科目、ビジネス関連科目 など

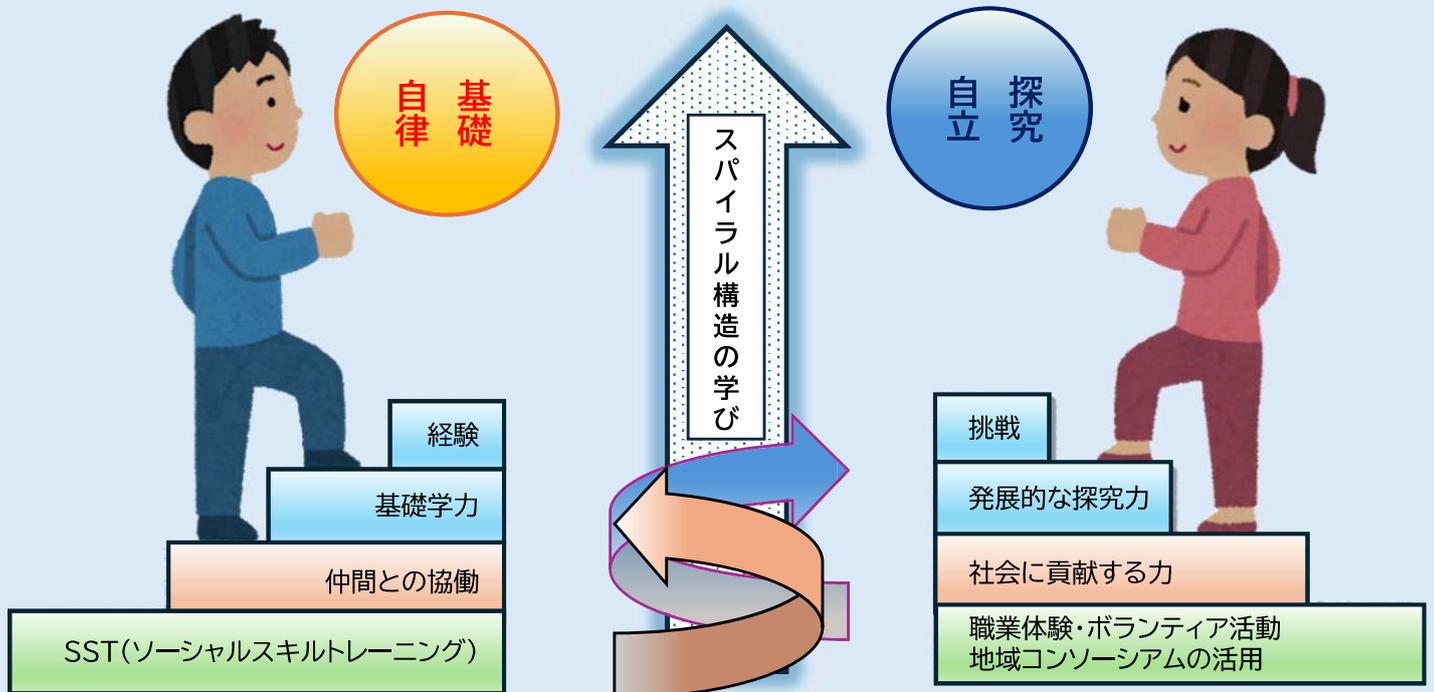
### 地域との連携

地域コンソーシアム\*4等を活用し、知識・技能・探究力を育成します

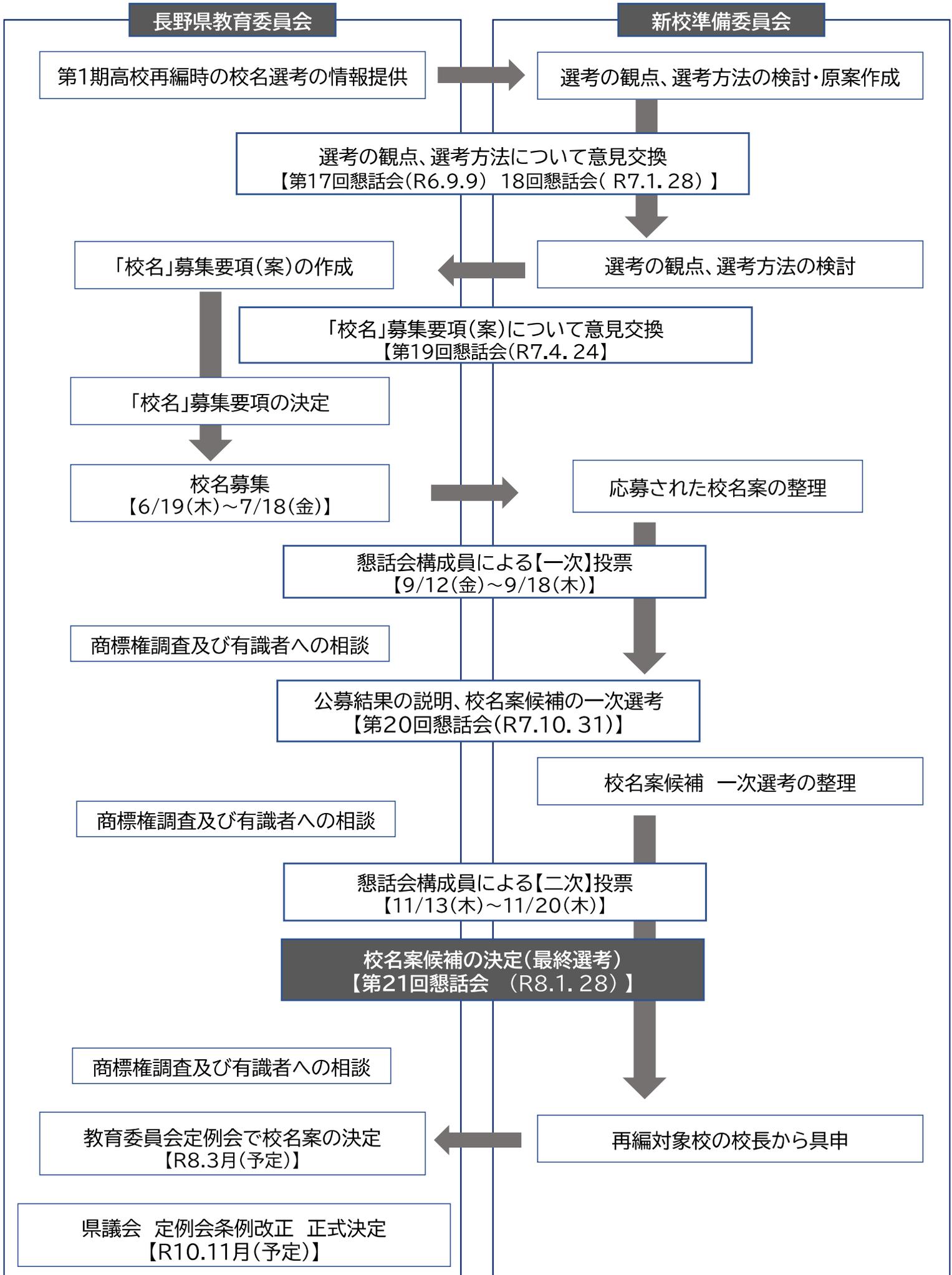
- ・体験的なキャリア教育
- ・校外でのアクティブな探究活動
- ・外部講師を活用した探究の深化
- ・校外学習や校外活動の単位認定

など

- \*1 SST(ソーシャルスキルトレーニング)・・・コミュニケーションや人との関わり方の学び
- \*2 SC(スクールカウンセラー)・・・心の悩みや学校生活の不安を相談できる専門スタッフ
- \*3 SSW(スクールソーシャルワーカー)・・・学校・家庭・地域をつなぎ、生活面の相談を支援するスタッフ
- \*4 コンソーシアム・・・学校と地域の多様な機関が協力し、学びや支援を一緒に進める仕組み



須坂新校 校名選考の流れ



# 佐久新校(仮称)「プロジェクトK(校名・校歌・校章)」スケジュール(案)

目的：新校のシンボルとなる「校名・校歌・校章」を一体的なものとするため、統一したコンセプトやデザイン感覚のもとに検討する

	R8												R9												R10				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
校名	一体的に検討するための「アドバイザー」検討・打診・依頼					校名選考						公募	校名候補整理	5~7案	2~3最終候補									両校校長からの員申	教育委員会定例会	校名・校歌・校章			
校歌						文化祭	校歌制作														正式発表								
校章						校章制作														正式発表									
WG	<メンバー> 吉岡座長 校長、教頭 県教育委員会 コンセプト(概要)					コンセプト(詳細)					進捗状況等を懇話会へ報告・意見交換																		
懇話会予定	懇話会			懇話会			懇話会		懇話会			懇話会		懇話会				懇話会				懇話会			懇話会		懇話会		懇話会
懇話会内容	プロジェクトに関する意見交換(コンセプト、校名公募に関する要項等)												校名候補1次選考		校名候補2次選考														